

2月

95

4号

文藝月録

講演

高木池子

自分は、随分講演をした。数へられないほど。講演をした。最初は少しも自信がなかった。それは、たしか大正九年であつたと思ふ。大平町の衛生會館で、東京白々主催の文藝講演会であつた。

自分と芥川の外、片上、島村、松浦とまあ顔觸であつた。芥川と自分は、是処女講演であつた。殊に、自分は一番最後の番であつた。だから、演壇に上つたときは、もう灯が点つて居り聴衆も、七分位は減つてゐる時であつた。中には、自分の講演中主にかけるものもある。こんなときは、笑ひにむかし。しかも、是処女講演であつた。このとき、一生懸命に下つたのは、~~珍~~ない。題はたしか「文藝批評論」といふものであつた。殊に、片上、島村、松浦（？）といふお話をした。人達のアトにおたのなが